P・T・A（父母と先生の會）に就て

近ごろ各地、從來の學校また子供の親でない一子供の保健衛生につき、樂しみを得る會を催したりなど、子供の教育の爲にまた、子供を育む鄕土の環境純化のためにいろいろの方面に亘つて考えらるべきである。そしてこれらはすべて、父母と先生との兩側から選ばれた委員によつて計畫されることが望ましい。各地に生まれかけたこの會が、縣下くまなく誕生し、教育の民主化が遺憾なく實現されるの近からんことを切望してやまない。

南信北信

▲電車の中で押し合いからて世の中に極樂の光明がさす。▲市民は食糧が無ければ生きられぬと同樣、農民も食糧以外の生活資材は之を都市に仰がなければ生きては行けぬ筈。▲社會連帶觀念と友愛相互扶助の必要な所以もここにある。▲二十二萬五千石と六百九十一萬二千貫、本縣農家にとつて決して輕いとはいえぬ。苦しかろうが聰明なる農民各位の認識と奮發を望むや切（M）

さんの皆者權有

あなたは選擧人名簿に登錄されていますか

本年九月十五日現在で調製した選擧人名簿に登錄されていない人は今後一ケ年の間に行う選擧に投票することができません。

有權者は必ず名簿の縱覽期間中に自分が登錄されているかどうかを市町村役場へ行つてたしかめて下さい

縱覽期間は十一月五日から十一月十九日迄です。

和歌山縣選擧管理委員會

縣廳雜信

◎人事課

今回官公吏の事務能力と敎養の向上を圖り眞に縣民の公僕として奉仕できるよう本年一月以降の採用職員の實務講習會を三回に分けて開催することになつた

會員委員審查否適職公縣山歌和

（自昭和22.2.25 至昭和22.10.25）

表覽一果結查審

		人數查審總	當該非決定	當該決定
縣	市市市郡郡郡郡郡郡	203	203	0
歌	山南邊宮草賀都田高妻妻	373	369	4
山	市市市郡郡郡郡郡郡	88	88	0
和	歌海田新海那伊有日西東	100	100	0
	山田邊市崎村神社牟牟	84	84	0
	計	955	954	1
		1,536	1,530	6
		1,049	1,047	2
		937	931	6
		1,629	1,623	6
		1,587	1,576	11
		1,094	1,091	3
		9,635	9,596	39

科目は官公吏必知の科二十四ケ町村長との連絡懇談をはかるため協目を網羅し講師は各課長これにあたることになつてゐる。

受講人員は約二百名

地方だより

◎那賀郡

郡選出縣會議員と管下

議會を開催することになつたが會名は木曜會と決定した。

又郡內町村助役を主体とする行政事務研究會を組織し自治行政の刷新改善研究を行ふことつた

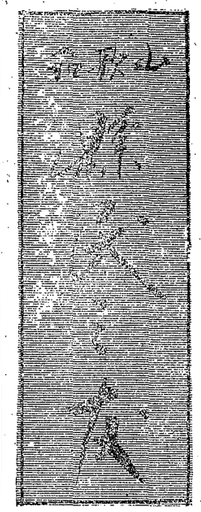
となつたが先づ第一回研究會は發會式を兼ね山崎村神社で開催の豫定

◎西牟婁郡

西牟婁郡田邊市水害對策委員會は十月十日地方事務所で開催

委員十二名幹事三名縣議三名が出席水害對策に關する種々協議を行

◎本紙は縣民皆樣の新聞です。論文、隨筆、小品その他縣政に對する御意見或は本紙編集に關する御注意等如何なるものをも歡迎致します。但し原稿には住所氏名明記下さい。紙上匿名は自由です。



通信所　和歌山縣原書記官
發行所　和歌山縣小松人事課
印刷所　唯一印刷株式會社
定價　一部金六十錢

冬期燃料對策

生産隘路を排除

昨年より增配可能？

今年の冬の燃料はどの位廻つてくるのだろうか。寒い暗い冬が間近に迫つてゐる今日此頃燃料問題はひとしく關心の的となつてゐる。統制の枠にはめられたこれらの燃料の需給對策を覗いてみることにする

木炭

年度內百五十萬俵を目指して夏期以來種々生産高揚に努力したが不幸にして七月の洪水により生産地たる日高、西牟婁、東牟婁郡等に於て木炭及び窯の流失搬出道路の崩壞等により多大の支障を來したのである。けれどもその後企業者、製炭者の涙ぐましい奮闘によつて暫時增産に向ひ九月末では累計五十一萬二千三百五十六俵の檢査成績を示し昨年同期四十二萬九千六百五十七俵に比較して約一割九分强の增産となつたわけである。秋冬最盛期は郡部縣民の要望に應へ初の地方進出として五萬一千三百八十五束で昨年同期二百三十四萬五千九百七十七束に比し之又生産の向上を見てゐるので家庭配給は出來る見込である

薪

年度內六百萬束確保を目指して木炭同樣凡ゆる生産隘路の打開に努め增産に努力した結果地方事務所から發表された筈。

煉炭

頭初十五萬個の生産計

第三回世論公聽會

十一月十日(月)田邊市で開催

第一、二回を和歌山市で開催した世論公聽會は郡部縣民の要望に應へ初の地方進出として十一月十日(月)田邊市で開催することに決定した。

內容は和歌山市に於ける第一、二回と略同樣で題目については特に限定せず廣く縣政一般とする豫定である。

場所、時間は未定であるが何れ詳細は西牟婁縣から發表さ

麥類增産對策

實施要綱近く發表

22年度

本縣の昭和二十二年米穀年度における食糧事情は運動を展開して食糧自給態勢の强化を圖るため

本年の產米狀況及び移入食糧の見透しよりして相當の不足が豫想せられ從つて來米穀年度の食糧不足の緩和は一に縣つて本年作麥類の增產如何にあるのであり新日本建設國民運動を新たに展開すると共に今後の社會教育を一層擴充强化するため

書を樹てゐたが、その後工場の復活、原料の入荷狀況を考慮に入れて三十萬個の生產目標に變更したがこれ又目標達成の見透しがついたので窮窟な割當配給を排して希望配給にしてゐるのである。

要するに今年の冬の燃料は昨年に比して稍々暖かな冬を過せるわけである

會聽公論世回二第

公營住宅の年賦制度を希望

建築復興問題について眞劍な討議

第二回輿論公聽會は十月十日參事會室で懇談會の形式をもつて開催、この日は先の第一回と違つて眞に膝を交へての會談で和やかな雰圍氣の中に討議せられ多大の効果があつた主なる意見と次の如くであつた

1、區劃整理、都市計畫の速やかなる公表

2、公營住宅の年賦制度の斷行

3、建築物に對する職種別需要調査の實施

社會教育振興

懇談會開催

新憲法公布一週年にあたり新日本建設國民運動を新たに展開すると共に今後の社會教育を一層擴充强化するため

社會教育課では各界代表を招いて社會の現狀を各面より檢討すると共に今後の在り方について協議する爲十一月六日縣廳會議室で懇談會を開催することゝなつた

秋肥（統制）の割當決定

本年八月より十二月分の統制肥料の割當は今回左の通り決定したなお、麥のリン肝用肥料（報奬用）は既に發表の通りであつて現物は町村へ配給せられてゐる

（一）本縣に對する本期（昭和二十二年八月―十二月）統制肥料割當量

（イ）窒素質肥料（硫安換算）三四八六噸九二九、六〇〇貫
硝安一、二一六噸（硫安換算一、九四六噸）
硫酸アンモニア二四〇噸　石灰窒素一、三〇〇噸

（ロ）燐酸質肥料（過燐酸換算）二、四四二噸　六五一、二〇〇貫

（ハ）加里質肥料（四〇％加里鹽換算）六七八噸　一八〇、八〇〇貫

（二）郡市別肥料別割當表

郡市名	窒素質肥料	燐酸質肥料	加里質肥料	備考
和歌山市	五五、六五二	一二、三五一		
新宮市	三、三三五	一、八六二	六五五	
海南市	五、二三六	二、九五五	六六〇	
田邊市	五、七六三	三、八八三	一、〇三二	
海草郡	一四〇、三三五	九八、八五三	二六、八二〇	
那賀郡	二七、八三五	一五六、七九四	四二、八四〇	
伊都郡	一二三、八三二	七九、八五九	三三、〇〇九	
有田郡	一三四、五四四	八六、七五二	三三、一三二	
日高郡	一三六、七八八	九八、九四三	二七、八八〇	
西牟婁郡	八九、八五四	六三、八五九	一七、八五五	
東牟婁郡	三五、一八二	一八、三六八	五、三六八	
保留	二、六五五	—	—	
合計	九九九、八〇〇	六四二、一〇〇	一八〇、八〇〇	

（三）本縣における肥料割當方針

（イ）麥作窒素質、燐酸質、加里質、各肥料共昭和十六年より全二十年迄の各郡市における麥五ケ年反當平均收量に依り郡市別反當肥料配給量を決定し之に各郡市の作付計畫面積を乘じ割當量を決定した。

（ロ）其の他の作物　窒素質肥料は本年八月二十日迄に麥供出割當量の九〇％以上供出した農家の内窒素質肥料でなければ配給を受けられない但災害等眞に止むを得ない事由に依り農林大臣の承認を得て知事が例外措置を講じた時は此の限りではない

（ハ）作物別肥料別割當表

作物名	割當面積	窒素質	燐酸質	加里質	窒素質	燐酸質	加里質
		割當量			反當量		
麥	一八、九一〇反	五五、二三三貫	二〇、三七八貫	一〇、四二〇貫	四、三〇〇匁	三、三〇〇匁	九二〇匁
馬鈴薯	五五五	一、七二六	八八五	三六〇	三、一〇〇	一、六〇〇	六五〇
全採種圃	一五五	一、一三五	四三五	一八〇	七、〇〇〇	二、七〇〇	一、一〇〇
開拓地蔬菜	二、一五五	二、四二三	一、一五五	四八〇	一、一〇〇	一、一〇〇	四五〇
蔬菜特產地	一三五	一五一	七二	三〇	一、一〇〇	一、一〇〇	四五〇
蔬菜指定地	二六、六七七	二九、三五七	一四、八三五	六、一四〇	一、一〇〇	一、一〇〇	四五〇
蔬菜採種地	一、八三七	一、九四七	一、一三七	四八五	一、〇五〇	一、一〇〇	四五〇
桑	九九	一〇一	一一	四	一、〇〇〇	一、〇〇〇	四〇〇
桑苗圃	一三五	一四四	一六	六	一、〇〇〇	一、〇〇〇	四〇〇
煙草	一、八三七	一、九四七	二一六	九〇	一、〇五〇	一、一〇〇	四五〇
果樹	三五	三七	四	一六	一、〇〇〇	一、〇〇〇	四〇〇
柑橘苗圃	三五	三七	四	一六	一、〇〇〇	一、〇〇〇	四〇〇
其他果樹苗圃	三五	三七	四	一六	一、〇〇〇	一、〇〇〇	四〇〇
除虫菊	一、三五五	一、四二三	一五八	六六〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	四〇〇
全採種圃	一五五	一六五	一八	七六	一、〇〇〇	一、〇〇〇	四〇〇
苧麻	八	八	一	三	一、〇〇〇	一、〇〇〇	四〇〇
マオラン	一〇一	一〇八	一三	四七	一、〇〇〇	一、〇〇〇	四〇〇
菜種	一四四	一五四	一九	七一	一、〇〇〇	一、〇〇〇	四〇〇
藥草	九七、三三〇	一〇四、一九四	一三、〇〇〇	四八、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	四〇〇
寶取蠶豆	三〇	三二	四	一五	一、〇〇〇	一、〇〇〇	四〇〇
綠肥採種圃	二、八四八	三、〇四八	三八〇	一四〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	四〇〇
山林苗圃	三〇〇	三二〇	四〇	一五	一、〇〇〇	一、〇〇〇	四〇〇
保留	三五五	三七九	四七	一七	一、〇〇〇	一、〇〇〇	四〇〇
合計	三六、〇五六	九九、二〇〇	一八〇、八〇〇				

林業界の驚異
森林伐採用
ミタカ自動鋸
和歌山市九番丁
伴野物產株式會社

和歌山縣
食料品卸商業協同組合
縣商工會議所內
電1656番

和歌山縣
和歌山精麥工業協同組合
一番丁和歌山市
（圖書館內）

公論

▲本紙は縣民皆樣の新聞です
▲論文、隨筆、意見等如何なるものをも歡迎致します
▲住所氏名職業明記、紙上匿名自由

民主政治の底流をなすもの
―電車内での感想―

高松から超滿員の電車だろう。つぎの電車もに乘ろうとしていると矢張、超滿員だ。私たちをかきわけて「なんで俺の足をふむ？」「おい、申えつめんかお前らが乘りたいのも仕方がないよ」「なに。」わしたちが乘りたいのも同じことやないか。」らこんな電車に乘るとさかんにわめきちらな。」「なに」「なんだ。」して男はどうにか車中と早速喧嘩が始まる。の人となつた。ところしかし幸なことに御雨ちに「おい、無茶をすではゆかない。あ、るな。乘れんもんは仕方がないよ。」と余りにもナンセンス的な彼の急變ぶりに次第に吐喧嘩の仲裁役は憤滿の氣を催ほしてくる生焦点を從業員に方向轉理的變化をもてあます換していつた。しかしのだつた。たつた今苦運轉手も車掌も皆同じ難から脫出し得た自分生活に疲れた横顏だ。その自分と同じ苦難「おい、共に齒を喰いに喘いでいる人たちに何という破廉恥な態度ぜ。」と肩を叩きあつてみたい心がすべてを光明面へ導いていくのでないか。

大臣にしろ知事にしろ中央、地方の政治家にしろ現在はもつれた糸まきを丹念にほぐすようなものであつて我々も理解と協力を惜んではならない。我々が馬車馬のように目先だけの私利にいらつている間に、リーダーたちはなんとか口實をもうけて我々にとつて根本的なものをあとに立つた。

まわしにした日には益々前途は遠くなるばかりだ。やゝこしい理論はともあれ民主政治の底を流れるものに、相互にあゆみよる心がほしい。この基底に立つての批判であり注視でありたい。砂上の樓閣ともなつては所詮はかない仕わざではある筆者はそんなことを思い浮かべつつ電車を降りてうそ寒い朝の街頭（風車子）

◉縣民の友を御購讀下さる方へ

定價は附錄付きで送料共一月五圓です
御希望の方は直接縣秘書課へ御申込下さい。

☆コント☆
弘子の發見
南風生

同僚青年たちの希望の星ともいうべき弘子は、二十をまだいくつもこさない知性美豐かな女性である。仁禮は周圍の同性からもまして異性からは一顧もあたえられないようなじみな性格と風貌の青年である。少年のようにそれそれとした執務、余暇をさいてはむつつりと讀書する彼、課の共同作業にも彼が參加すると、ふしぎに全体の空氣をコントロールしていく、そういつた自己滅却のみごとな人格でもある。多くの青年たちの意識的なしぐさの中に仁禮は一体木石のようた男なのかと弘子は考える。

「仁禮さんの人格を明確に直視することができた自分がもうあせり氣味の双眸を秋色の濃くない山なみにはせた一瞬、善良そのものの如き、しかしまっすぐできなりぶつつかつてきた。

和歌山縣廳厚生課內
和歌山縣民生委員連盟

會長　和歌山市　林　英造
副會長　那賀郡　井上縫之助
理事　和歌山市　志馬信夫
〃　田邊市　亀田兼吉
〃　海南市　繪原清一
〃　新宮市　尾鰐英吉
〃　伊都郡　石井正親
〃　海草郡　中谷茂治
〃　有田郡　花手啓三
〃　日高郡　升崎外彦
〃　西牟婁郡　瀧本庄太郎
〃　東牟婁郡　藤薮仙之輔
監事　和歌山市　八幡政吉
〃　海南市　多田嘉夫
〃　伊都郡　奥田隆光
連盟主事　森田正三郎

和歌山縣民生福利協會事務所
和歌山市米屋町十三番地